

各学校の代表児童の主張

伊丹小学校 木田 依里

今よりも小さかった時、私は、とてもあまえんぼうでした。
お母さんがトイレに行くと、

「ママ、マーマー。」

といって、トイレの中までついて行ったそうです。そんな私
をかわらせてくれたのは、弟でした。弟が産まれて、私はお姉
さんになりました。それが3歳の時でした。その時から、一
人でお留守番したり、近くのお店までパンを買いに行ったり
できるようになりました。

それから、お母さんは、色々なことを教えてくれました。

例えば、お皿洗い、服のたたみ方、漢字で自分の名前を書
くこと、かけ算の2のどん、いっぱいいっぱい教えてくれま
した。今では、お家の仕事の手伝いもできるし、最近、産ま
れた妹のおむつ替えや、ミルク作りもできるようになりま
した。

将来なりたい職業は、幼稚園の先生です。なぜかという
と、以前お母さんがしていたからです。優しい幼稚園の先生にな
って、子どもたちといっぱい遊んであげたいです。

そして、お母さんのように優しく、色々なことを教えてあ
げられる大人になって、いつかは、お父さんが私にしてくれ
たように、家族を色々な所へ旅行に連れて行ってあげたいで
す。

私は、大人になったらサッカー選手になりたいと思っています。

私には兄がいて、兄は中学校でサッカー部に入っています。ある日、試合を見に行った時、兄がシュートを決めた瞬間を見ました。その時、『かっこいいな！』と思いました。これがきっかけです。

お休みの日に、兄とサッカーをするのが楽しみです。私がボールを持って、兄をかわす遊びです。なかなか兄をかわすのは難しいです。うまくできなくて、兄にバカにされ、ケンカになる時もあるけど、「さすが私の兄！！」と思っています。

2分の1成人式の学習をしている時、どうして私は耳が聞こえないんだろうと思いました。サッカーをする時も、ふえの音が聞こえません。審判が何を言っているのか、わからない時もあります。

でも耳が聞こえないからといって落ちこんでいられません。たとえ何度も失敗したとしても、誰にも負けないように練習し、チャレンジしていく大人になりたいと思います。

これまで、母と父につらい思いをさせたから、これからは、少しでも恩返ししたいと思います。

私の将来の夢は、動物の訓練士になることです。

動物の訓練士には、犬サーカスの訓練士と警察犬や盲導犬を育てる訓練士の2種類があるそうです。私はどちらがいいかということ、子犬から警察犬や盲導犬などを育てる訓練士になりたいです。

その理由は、目の不自由な人など、体の不自由な人たちの力になる仕事がしたいからです。また、最近では事件が増えているので、警察犬を訓練して事件の解決に役立ちたいと思っています。それに、何より動物が好きだからです。

私の家はマンションなので、犬を、かうことができません。だから、ペットショップに行くと、真っ先に犬のコーナーに行き、時間を忘れて夢中になって犬を見ています。

あともう一つ理由があります。それは、テレビで、シェパードという種類の警察犬が、どれだけ足が速いかを、訓練士さんが紹介している番組がありました。それを見て私は、あこがれを持ちました。どうしたら訓練士になれるかは、まだ勉強中です。

今、これまで育ててくれた両親や周りの人たちに感謝の気持ちを持ち、将来、人に感謝されるような人になりたいと考えています。そのためにも夢に向かって努力していきたいです。

僕は8日前の1月4日に10才になりました。

僕は大人になったら、動物のお医者さんになりたいです。

3年生の秋に、弱ったコウモリを見つけたことがきっかけです。図書館の帰りに、千僧池のはしにコウモリが体を丸めて落ちていました。持って帰って、お母さんに、

「どうしたらいいやろう。」

と聞くと、お母さんは、

「ベランダにおいとき。」

と言いました。僕は、前に、すずめがブランコにあたって落ちた時のことを思い出しました。友だちが、そのすずめを児童クラブのみんなに見せると、先生は、

「病院に行った方がいいなあ。」

と言いました。あとから先生に聞くと、その夜、「岡じゅう医」という動物病院に行ったそうです。

僕は、コウモリもそこでみてもらおうと決めました。しかし、ベランダに出てコウモリをさわると、すでに冷たくなっていました。僕は、とても悲しくなりました。

このことがあってから、動物のお医者さんになりたいと思うようになりました。動物のお医者さんになったら、絶対、自分がみた動物は死なせないようにがんばります。

今、僕は10才、本当の成人まで半分のところまでやってきました。これまで見守ってくれた家族に感謝して、これからも夢に向かってがんばっていきたいです。

僕は、これまでの10年間で、どれだけの人に助けてもらったかは、数え切れません。お母さん、お父さんには、特にお世話になったと思います。

毎日、ご飯を作ったり、お皿をあらったりしているお母さん、毎日、会社に行っているお父さん。そんなお父さんやお母さんに、「ありがとう」の気持ちをこめて、家の手伝いをしたいです。そして、お父さんやお母さんの期待にこたえて、りっぱな大人になりたいです。

お母さんに、僕が小さかった頃、一番大変だったのは何と聞いてみました。すると、弟が生まれて僕が赤ちゃん返りしたことだと言っていました。弟におっぱいをあげている時にかぎって、トイレに行きたいから、一緒についてきてと言っていたそうです。

僕は、まだ、はっきりとした将来の目標は決めていませんが、以前から大工さんの道具を使うのがかっこいいなと思っています。大工さんになって、家を建てて、みんなに喜んでもらいたいです。

僕は、これからどんな出来事に出会うか分からないけど、がんばって、将来の夢に向かっていきたいです。

私は去年の10月に10才になりました。でも、小さい頃
のことはぜんぜん覚えていません。

お母さんに小さい頃の様子を聞くと、生まれたときに、羊水
を飲んでしまったので悪い病気に感染するおそれがあり、し
ばらく、保育器に入っていたそうです。だから、今、元気で
大きくなれたことはすごく大事なことなんだと思います。

今の私は、本を読むことが大好きです。読んでいると本の
世界にすいこまれて、昔の時代に行ったり、外国に行ったり、
旅ができるからです。もう一つの理由は、頭の中で色々な風景
を想像できるのが楽しいからです。

本の中には、今でもずっと読み続けられている昔の本もあ
るし、字だけで色々な世界を想像させてくれるものもありま
す。

私には、知らないことや分からないことがたくさんありま
す。これからも色々な本を読んで、知らない世界のことを知
りたいです。

将来は、みんなが読みたくなるような物語を書いて、読ん
でくれる人を、楽しい気分にするような作品を残せたらと考
えています。

今まで、生まれてからこれまでのことや、将来のことを考
えたことはなかったけど、目標や夢をもって、それに向かっ
てがんばる気持ちを忘れないようにしたいです。

僕は3～4才の頃、ちょっとしたことで、つまずいてこけてしまい、おでこを7針ほどぬいました。その頃の僕は、とても、どんくさかったようです。

幼稚園に入る頃から、自転車の練習を始めました。お兄ちゃんは、その前から練習を始めていました。もうすぐ、お兄ちゃんに追いつけるかなと思っていたら、先に、お兄ちゃんが乗れるようになりました。それから、お兄ちゃんや、その友だちに教えてもらい、僕も、少しずつ上手に乗れるようになりました。すると、自転車に乗ることが、とても楽しくなって、遊びに行く時も、お使いに行く時も自転車で行くようになりました。

ある時、一度、両手ばなしで自転車をこいでみると、できたのです。その時、自分でもすごいと思いました。それから、何度も練習することにしました。

そんなふうに僕がなれたのも、お兄ちゃんがいたからだと思います。今、考えてみると、僕の目標であり、また、最大のライバルは、いつもお兄ちゃんだったような気がします。これからも、そうだと思います。

ところで、僕の「俊希」という名前には、「何でも早くできるように」、そして、「希望を持てるように」という意味があります。そんな願いをこめて、お父さんとお母さんがつけたそうです。

これからも、失敗してもあきらめることなく、やってみたいことに挑戦したいです。

僕が2分の1成人式に出ようと思ったのは、音楽会の舞台上でシンバルを演奏したことがきっかけです。

今までの僕は、班長や学級代表など、みんなの前に立つことはありませんでした。その理由は、恥ずかしい気持ちや、面倒くさい気持ちがあったし、遊ぶことの方が僕にとっては大事だったからです。

また、僕は、今までは、サッカーばかりやっていて、あまり勉強はしませんでした。宿題も雑で、集中できませんでした。そして、「字がきたない」と、いつも、先生にやり直しをさせられていました。でも、この頃、勉強も少しずつするようになりました。字もていねいに書けるようになって、やり直しもなくなりました。

最近の僕は、何に対してもやる気が出てきました。サッカーも一生けん命に練習して、リフティングが449回もできるようになりました。『努力すればなんでも、できるようになるんだ』と思いました。勉強も、ほんの少しだけ楽しくなって、長い時間、自由勉強をするようになりました。

音楽会のことがあったから、自分に自信が持てるようになり、新しいことに挑戦してみようという気持ちを持てるようになってきました。こんな僕の大変身に、お母さんは、とてもビックリしています。

これからも、自分の良い所を、どんどん増やしていきたいです。

今までのことを振り返ってみて、気づいたことが二つあります。

一つめは、いつも家族が、私を支えてくれているということです。何も心配せず、学校へ行ったり、習い事に行ったり、ご飯を食べたりできます。毎日、私が、元気に暮らせているのは、お父さんやお母さんが支えてくれているお陰です。

二つめは、先生や、お父さん、お母さんが私を叱る意味です。他人は、私が間違っただけをしても、「間違っているよ！」と、なかなか教えてくれないものです。しかし、先生や、お父さん、お母さんは、私を正しい大人に育てたいと思っただけです。叱られた時、うっとうしいと思うけど、私をちゃんと叱ってくれる人がいることは、幸せなことなんだと思います。

また、友だちの存在も大きいと思います。

私には、いつも気にかけてくれる友だちがいます。私の悩みを聞いてくれる友だちもいます。そんな友だちを私は信じているし、友だちも私のことを信じてくれています。それは、とても素晴らしいことだと思います。

私たち4年生は、あと10年で成人になります。これからの10年間に、もっと色々なことを学んで、立派な人になりたいです。そして、私を助けてくれた先生、お父さん、お母さん、友だちを、今度は私が助けたいです。

私の将来の夢は、ケーキ屋さんです。

目標は、自分のケーキ屋さんを開いて、自分が考えたケーキをつくり、自分だけのデコレーションにすることです。夢が、かなったらいいなと思います。それに向けて、私は、私なりにやろうと思います。

今でも、『どんな形のケーキにしようかな』『どんな味のケーキにしようかな』『どんなデコレーションのケーキにしようかな』と、色々と考えています。

私の一番つくりたいケーキは、形はハート型、味はいちご味、デコレーションは金の玉と銀の玉を飾りにつけて、黄色のコンペイトウをケーキの中にうめこみ、チョコレートをしめます。

中身はイチゴとイチゴムース、その上には、粉砂糖をまぶし、ろうそくの色はみどり色です。味は、おいしいかどうかわからないけど、一生けん命つくりたいです。そして、たくさんの人に食べてもらいたいです。

僕は、今、20才までのちょうど2分の1の所まで来ました。

どんな将来になるかはわかりません。でも、今の所、夢は芸能人です。どうなるかはわからないけれど、それに向かってがんばっていきたいです。

まだ、何もしていないけれど、でも少しずつでも夢に近づけるようにがんばります。芸能人になるためには、オーディションを受けたり色々なことをしたりしないといけません。

そのためには、大変、勇気がいります。その勇気を10才くらいからつけていきたいと思います。勇気は、これから生きていく上で必要になってきます。だからこそ、今、身につけておきたいと思いました。また、知識や表現力もいります。それも、今からコツコツがんばりたいです。

中学、高校、大学に行って、もっと自分を磨いて芸能人になるつもりです。

僕ぼくがもっともお世話せわになっている人は、お母さんです。お母さんは、家族かぞくのために、毎日、ご飯はんや洗濯物せんたくもの、食器洗しょつきあらいなどをしてくれます。

お母さんは、たまに、こたつで寝ねてしまいます。お母さんは、どうして、こたつで寝ねてしまうんだらうと、僕は思ぼくいました。よく考えたら、疲つかれているから、ふと、寝ねてしまうんだと思ぼくいました。お母さんのことを考えると、つくづく大変たいへんだと思ぼくいます。だから僕は、今、少しでもお母さんの役に立てればと思ぼくっています。

次に、お世話せわになっているのはお父さんです。お父さんはバスの運転手です。朝、早くから家を出ます。「お父さんも大変たいへんだな。」と思ぼくいます。お父さんが働はたらいて、手に入れたお金があるからこそ、ご飯はんが食べられるのです。

お父さんも、お母さんと同じように、口には出はしませんが、きつと疲つかれていると思ぼくいます。だから、そんなお父さんのために、僕は、ビールを冷ひやしています。そのビールをお父さんがおいしそうに飲のむ姿すがたを見ると、とてもうれしくなります。

最後に、僕ぼくのおばあちゃんです。おばあちゃんは元気に働はたらいています。昼ひるの3時ぐらいに家を出て、帰かってくるのが夜の12時ぐらいです。そんなおばあちゃんを、僕ぼくは、スーパーばあちゃんだと思ぼくっています。

2分の1成人式せいじんしきを機会きかいに、今まで、お世話せわになった人に、「ありがとう」の言葉ことばを言います。

お母さん、いつも料理りょうり、洗濯せんたく、そうじ。みんな一人でやってくれてるよね。「部屋へやをきれいにしなさい。」「洗濯物せんたくものを、かたづけなさい。」とか、うっとうしいなって思ったけど、これは全部ぜんぶ、私わたしのために言ってくれてたんだよね。ありがとう。

お父さん、私わたしの習い事ならごとのために、毎日一生けんめい働いてくれて、本当にありがとう。だから、私も、一生けんめい習い事ごとをがんばるね。

お姉ちゃん、私わたしにはこわいけど、いっぱいお世話せわになってるね。ありがとう。これからもよろしくお願いします。

おばあちゃん、おいしい物ものをごちそうしてくれたり、お母さんたちが買ってくれないものを買ってくれたね。ありがとう。おばあちゃんと話している時ときは、すごい楽しいよ。また、いろいろ教おしえてね。

そして友だち。優しく相談そうだんにのってくれたり、困っている時ときに、助けてくれたり、たまには、けんかもするけど、知らない間あいだに仲直りなかなおします。

私わたしは将来しょうらい、ダンサーになりたいです。今、習ならっているダンスを続つづけて、だれもが知っているダンサーになって、お世話せわになった人を楽しませたいです。

ある日、お母さんからこんな話を聞きました。

「嬉しい事があった時に、『ありがとう』という感謝の気持ち
を大切にしたら、嬉しい事が増えるんだよ。」と。

その話を聞いてから、「素直に、人に『ありがとう』と言
えることも大切だし、人から『ありがとう』と言われること
をすることも大切だ。」と考えるようになりました。そうや
って生活していると、自然と、友だちがいっぱい増えてきま
した。「ありがとう」という言葉には、すごい力があると思
いました。大切なことを教えてくれたお母さん、ありがとう。

私には友だちがいっぱいいます。明るい友だち、頼れる友
だち、相談にのってくれる友だち、……。でも、友だちとケ
ンカをする時もあります。小さなことが原因で、ケンカをし
た時は、すごく落ちこみ、悲しい気持ちになります。そんな時、
別の友だちが、「どうしたの?」「大丈夫?」と優しく声をか
けてくれて、仲直りができるように話をしてくれます。多く
の友だちが、たくさんの場面で支えてくれているから、今、私
は、笑顔ですごせているのです。

将来の夢は、ゴルフの選手です。プロゴルファーの上田
桃子選手を尊敬しています。私も将来、誰かに尊敬してもら
えるような選手になりたいです。そのために、きびしい練習
や、つらいことを乗り越えて、自分の夢にむかって、がんば
っていきたいです。

「佳奈、転地の時に誕生日やったね。私は、9才やけど、これからもよろしく。」と、朝、教室に入ったら、机の上に、プレゼントといっしょに、手紙がおいてありました。

私の誕生日は5月16日。10才の誕生日は山小屋でのお祝いでした。クラスのみなどと牛乳で乾杯。ハッピーバースデーを歌い、みんなで大きな円になって朝ごはんを食べました。嬉しかったです。

忘れ物をした時、「どうしたの?」と聞いてくれる人がいます。その時、「自分のことを気にかけてくれているんだな。」と思います。私の周りには、私のことを分かってくれる友だちがたくさんいます。そんな中にいることが今、とても嬉しいです。

母は仕事をしています。私も、お米洗いや、洗濯物を運んだり、家の用事を手伝っています。疲れていても、母に頼まれると、やはりしてしまいます。そんな私のことを、友だちは、「佳奈らしいなあ」と言います。みんなに頼りにされていると思える自分がとても好きです。

私の将来の夢は、保育士です。小さな子と思いっきり遊び、勉強を教えてあげたいです。頼りになる保育士さんになって、泣いている子がいたら、優しくしてあげたいです。いっぱい遊んで、みんなを笑顔にしてあげたいです。

将来の夢は、大工になることです。僕のお父さんが親方の一つ下の大工で、それで、僕も大工になりたいと思いました。僕が、1、2年生の頃、たまたまお父さんの現場が、家の近所だったので、そこまで見に行きました。

お父さんは一生けん命、かべにコンクリートをぬったり、木を切ったりしていました。とても、真けんな顔をしていました。僕も木のかすを集めて、そうじの手伝いをしました。

それからしばらくして、家が建ったと聞いたので、見に行きました。すると、洗濯物がほしてあったので、「もう人が住んでいるんだな。」と思いました。

お父さんの現場は、いつもは遠いところです。だから、お父さんは毎朝5時に起きて6時30分頃に家を出ます。僕も、大工をしていたらこのくらいの時間になるんだなと思いました。学校の時間とは大ちがい。僕は今、早起きの練習をしています。

僕が遠足や社会見学で弁当を持って行く時、いつも弁当といっしょにお母さんからの手紙が入っています。その手紙を読むのがとても楽しみです。

時々、お父さんは休みの日に、キャッチボールをしてくれます。お父さんとキャッチボールをした後は、いつもボールを投げるのが速くなった気がします。

これから僕は、大工になれるようにがんばって勉強していきます。

これまでの私をふり返ってみると、小さい頃から家族や周りの人たちに支えられてきました。

たとえば、家族は栄養満点のご飯を作ってくれます。だから、いつも健康でいることができ、学校や習い事を休まずに行けます。さみしかったり、困ったりした時には、友だちが優しく、「だいじょうぶ、どうしたの。」と声をかけてくれます。友だちの一言で元気になることができます。勉強が分からない時は、先生が優しく教えてくれます。だから、今では勉強がおもしろくなってきました。

最近、私は家族から頼りにされるようになりました。お母さんが仕事で、留守の間、妹の面どうを見たり、簡単なご飯を作ったりできるようになりました。そんな時、家族にほめられるので、うれしくてどんどんやっていきたくになります。

私は、大人になったら看護師になりたいです。けがや病気で困っている人を助けて、世界で一番心優しい看護師になりたいです。そのために、まずは学校の勉強をがんばりたいです。その他には、ピアノもうまくなるように毎日練習したいです。

このような気持ちになれたのは、私を大切に思ってくれる人たちのお陰だと感謝しています。お母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃん、妹の萌子、みんなみんなありがとう。

僕は、まだ言葉がはっきりしゃべれない頃から、「あれはなに？」と何でも聞いていたそうです。車が好きで、お父さんによく名前を覚えてもらいました。運動も大好きで、自転車に乗ったり、虫をつかまえたりして、よく遊んでもらいました。今では、体操やバドミントン、吹奏楽など、いそがしい毎日。

習い事では、お母さんが送りむかえしてくれたり、アドバイスをくれたりして応援してくれます。

好奇心おうせいな僕の将来の夢は、歴史学者になることです。武田信玄のことを本で読んで好きになったからです。信玄は、刀や鉄砲を使うのが得意で、体ががっしりしていたそうです。それに、戦い方がとても上手で、自分の土地をどんどん広げたすごい人です。今の日本を作った素晴らしい歴史上の人物のことをみんなに知ってほしいと思っています。

僕が、何にでも興味を持てるようになったのは、お父さんやお母さんが色々な場所に連れて行ってくれたからです。お父さん、お母さん、周りのみんなありがとう。

これから、歴史をもっと勉強したいです。そして、家族や友だちや先生に信頼される人になり、夢をかなえたいです。

しょうらい 将来の夢は、ヘアスタイリストです。

その理由は、もちろん自分も大人になったらきれいになりたいし、また、みんなもきれいになりたいと思ったからです。

ようちえん 幼稚園の時や、とき 1年の時はケーキ屋さんがいいなと思っていましたが、「せいじんしき 2分の1成人式」がきっかけで、もう一度考いちどえなおしてみると、「ヘアスタイリストになりたい。」という気持ちが変わってきました。

わたし 私は、りょうしん 両親や、おじいちゃん、おばあちゃんにととても感謝しています。せいじんしき 10才は、成人式までの一つの節目だから、それを機会に、これからの10年間をむだにしないように、色々いろいろな経験をつんでいきたいと思います。

わたし 私は、大人になった時に困らないように、今、一日一日を大切にがんばろうと決意しました。その決意を守れるように、今から勉強や友だちとの関係作りなどをがんばりたいし、もちろん、自分の将来の夢がかなうように勉強したり、実行したりしていきたいと思います。

わたし 私は、今10才で、せいじん 成人になる半分の年です。

この10年間、かぞく 家族や友だち、先生など、たくさんの人に支えられて大きくなりました。

例えば、いけない事をした時には叱ってくれ、かな 悲しい時には、はげましてくれました。お父さんやお母さんは、一生けん命に働めいき、あいじょう 愛情いっぱい私を育ててくれました。

わたし 私は、この10年間で出来るようになったことがたくさんあります。4年生では、転地学習に行き、人に頼たよってばかりではなく、自分のことは自分でしないと出来ないということも学まなびました。これからは、わたし 私が、お母さんの代わりかにできることは、お手伝てつだいしていきたいです。

また、しょうらい 将来の夢ゆめは水泳選手すいえいせんしゆなので、あきらめない気持ちを大切につづにして、これからも練習れんしゆうを続けていきたいです。そして、その夢ゆめをかなえたいです。

これからも、今までお世話かんしゃになった人への感謝の気持ちをわすれず、友だちや家族かぞくを大切におとなにして、りっぱな大人になれるようにがんばります。

今までお世話になった人たちは、家族はもちろんですが、幼稚園や学校の先生、病気になった時に助けてくれた病院の先生や看護師さん、近所のおじさん、おばさんたち。そのほか数え切れないくらいの大勢の人たちがいます。そのお陰で僕は大きくなりました。ありがとうの気持ちでいっぱいです。

その中でも、僕を一番勇気づけてくれたのは友だちです。

楽しく遊んだり、病気の時に手紙を書いて、はげましてくれたりしたので。

僕には、お兄ちゃんが一人います。それ以外に兄弟のように育った幼なじみがたくさんいます。小さなけんかもいっぱいいたけど、すぐに仲直りできた友だちです。

今は関東と関西で遠くはなれていますが、手紙や電話で交流しています。伊丹でも大事な友だちができました。

僕の将来の夢は科学者です。科学者になって周りの人たちのためになる研究をしていきたいです。科学者になるためには、もっと色々なことに興味を持って、不思議なことを発見したり、どうしてこうなるのかを考えたり、いっぱい勉強していきたいです。

これからも友だちを大切に、友だちからも色々なことをいっぱい学び、いっしょに成長していきたいです。

今の私は、とても幸せだと思っています。なぜなら、食べ物も服も、電気も水も、友だちも家族もあります。食べることができない、学校に行くこともできない、水もないし電気もない人たちのことを思うと、今の自分がとても幸せなんだと感じます。世界中には、10才になれずに死んでしまう子どもたちが何人もいることを知りました。

私は、勉強するのがいやだと思うことがあります。そんな時は、友だちが助けてくれます。自分はおっちょこちょいだけど、友だちといっしょだったら、私のいけないところを友だちがおぎなってくれます。たくさんの友だちから大切なことを学びました。

私の将来の夢は、体の不自由な人たちを、少しでも手伝うことができる仕事です。10年後、夢がかなうかどうか、わかりません。だけど、できるだけ努力はするつもりです。

将来、困っている人がいたら、「お手伝いをしましょうか？」と声をかけてあげられるような人になりたいです。そのためには、今からちゃんと勉強しておこうと思います。また、これからは今より、もっと人に優しくしようと思います。

山に連れて行っては、植物のことを教えてくれるおばあちゃんとおじいちゃん。ふだんは優しいけれど、ルールや食事のマナーにはきびしいお父さん。そして、いつもそばでニコニコと私を見守ってくれているお母さん。ふだんは照れくさくて言えないけれど、とても感謝しています。

お母さんは私を産む時、私の頭が、ち骨に引っかかってなかなか出てこなくて大変な思いをしたそうです。無事生まれて大きくなりましたが、今度は妹とけんかをして毎日お母さんを困らせています。それでもお母さんは、私に、「家のお手伝いや、頼んだことを責任を持ってやってくれるから助かっている。」と言ってくれます。私は、将来、お母さんのように、家族が安らげる温かい母親になりたいです。

私は小さい子が大好きなので、将来、保育士になりたいです。そして、私が好きな歌やダンスを教えてあげて、子どもたちの笑顔をたくさん見たいです。

保育士という仕事は、人と人とのコミュニケーションを大切にしなければなりません。これから先、中学校、高校と、どんどん広い世界に足をふみだします。自分から話をして、輪を広げてたくさんの人と仲良くしようと思います。

私は、小さい頃からバレエを習っていて、今で5年目になります。今まで色々な先生を見てきましたが、どの先生も踊るのがとても上手で、そんな先生たちを見て、「かっこいいな。私もあんなふうになりたいな。」とあこがれていました。それで、将来、バレリーナになり、見る人を楽しませたいという夢を持つようになったのです。

私がバレエを習い始めたのは、お母さんがすすめてくれたからです。お母さんがすすめてくれなかったら、バレエは習えませんでした。練習着を買ったり、レッスン費をはらったりと、すごくお金がかかります。でも、お母さんもお父さんも、そんな気にせずはらってくれます。

私は、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんたちに応援してもらいながら、バレエを続けられることがとても嬉しいです。

私のお母さんは、子どものために色々な行事をひらいたり、子どもといっしょに遊んだりするのが仕事です。だから、周りの人に、とても優しいです。お母さんは、困っている人がいたら、さっと手伝っています。私は、そんなお母さんが大好きだし、そんな大人になりたいです。そして、バレリーナになるという夢も実現させたいです。

私は運動が苦手です。だから、自転車に乗れるようになったのも、逆上がりができるようになったのも、みんなよりも時間がかかったし、努力も必要でした。

自転車に乗れるようになったのは、1年生の夏でした。おばあちゃんの所で、お父さんが練習につきあってくれました。とても厳しい練習だったけど、初めて一人で乗れた時は、嬉しくて、いつまでも乗っていたい気分でした。

逆上がりができたのは2年生の時でした。

「体育の時間に、一番低い鉄棒で逆上がりができたよ。」

とお母さんに言うと、

「やってみせて。」

と言われたので、放課後、校庭に行きました。しかし、お母さんの前では、何回やってもできません。

そこで、逆上りの特訓が始まりました。お母さんは、逆上がりが得意だったので、実際にやって見せてくれました。確実にできるまで一生懸命教えてくれました。

その様子を担任の先生が見ている、

「お母さんと、いっぱい練習して、えらいね。」

とほめてくれました。

自転車も、逆上がりも、私一人では、できなかつたと思います。お父さんとお母さんに感謝しています。

私の夢は、美容師になることです。色々な髪型を、その人の希望に合わせて、きれいにしてあげたいです。髪型を変えると、気分がいいし、自分が全く別人に思えます。人に見せたくなり楽しくなって街を歩きたくなります。そういう感じをお客さんに実感させてあげたいです。

もし、私が、美容師になれたら、一番にお父さんとお母さんにお客さんになってほしいです。

お父さん、お母さん、今まで私を育ててくれてありがとう。これからも見守っていてください。

僕ぼくの家は、中学校1年生の兄りょうしんと両親かぞくの4人家族です。みんなで、山登りやまのぼをしたり、盤ゲームばんをしたり、旅行りょこうに行ったり、サッカーの試合しあいを見に行ったりもします。家族かぞくといると、いっぱいしゃべれるし、気分きぶんが明るくなるし、やる気が出てきます。家族かぞくは、僕ぼくの宝物です。

今、僕ぼくはサッカーのクラブチームに入って、毎日練習れんしゅうに励んでいます。試合しあいがあると、家族かぞくで応援おうえんに来てくれます。そんな時は、緊張きんちようしますが、いつもより集中しゆうちゆうできていいプレーができるのです。

試合しあいに行く時は、母は、朝からおにぎりを作ってくれたり、冷たくておいしいお茶ちやをたくさん作ってくれたりします。それに、朝早くからサッカークラブの当番とうばんもしてくれます。よごれたユニフォームも、ていねいに洗濯せんたくしてくれます。だから、僕ぼくは、サッカーを続けることができるのです。

僕ぼくは、サッカーのこと以外いがいにも家族かぞくに色々いろのことをしてもらっていることに、気がつきました。そのお陰かげで、僕ぼくは、毎日楽しくすごせています。これからは、僕ぼくも出来ることは自分でして、みんなのたすことを助けていきたいと思います。

僕ぼくは、大人おとなになったらサッカー選手せんしゆになりたいと思っています。サッカーで活かつやくして、みんなに元気をあげられるような選手せんしゆになりたいです。

私は今、10才です。2分の1成人です。

私が生まれた時は、すごく元気なうぶ声をあげたそうです。お母さんは、看護師さんに、「元気な声ですね〜。」と言われたそうです。

私の名前は、『花林』です。この名前の由来は、お父さんが花にこだわっていたので、それで、字画があう『花林』にしたそうです。

今の私は、4年1組。1年生の時、少しいじめられていたけど、もう大じょうぶ！優しい友だちが、私をはげましてくれたり、遊んでくれたりします。私は、4年1組のみんなが大好きです。それから、色々なことを教えてくれる宇野先生も大好きです。

私の将来の夢は、シンガーソングライターです。そのわけは、お父さんがバンドをくんでいて、そのボーカルの人にあこがれているからです。聞いている人の心にしみるような歌を作って歌える人になりたいです。

私のおじいちゃんは、私が生まれた時は入院していたけど、わざわざ、お医者さんの許可をとって、私がいる病院まで来て、私をだいてくれたそうです。でも、私は、そのことを覚えていません。おじいちゃんは、私が生まれてちょっとして亡くなりました。

おじいちゃん、そして、おばあちゃん、お父さん、お母さん、本当にありがとう。

私は、平成9年9月25日に生まれました。赤ちゃんの頃から、アトピーという病気で、「かゆさと病院通い」という、少しつらい記憶があります。

どのようなかゆさかというのと、虫にさされた以上にかゆいものです。かゆさのあまり、肌をかきむしり、それで出血もしました。食べ物の制限もあり、つらかったです。

幼稚園の思い出は、大好きなプールに入れなかったことです。小学生になり、やっとプールにも入れるようになりました。でも、今も、3ヶ月に一度、検査と治療のために三重県の病院まで行っています。

私が一番お世話になったと思うのは、おじいちゃんとおばあちゃんです。お母さんが仕事を持っていたので、おじいちゃんとおばあちゃんが私の面倒をみてくれたのです。時には、おばあちゃんの所で泊まることもあり、さみしい思いはしましたが、その分、おじいちゃんとおばあちゃんが優しくしてくれました。

将来の夢は、保育所の先生になることです。幼い時に、お母さんの代わりに、おじいちゃんとおばあちゃんから優しくしてもらったように、私も、小さな子どもたちの世話をしたいです。

僕ぼくが生まれた時は、かた目をつぶっていて、母は、とても心配しんぱいしたそうです。

僕の兄ぼくは、重度じゅうどの知的障害ちてきしょうがいがあります。母が兄ばかりかばうので、僕はぼくきらわれているのかと思っていました。

ある時とき、手紙で、

「なぜ兄ちゃんばかりなの。」

とたずねると、母は、

「お兄にいちゃんは病気びょうきなので、大輝だいきにめいわくかけるけど、ママは心のなかで愛あいしてるよ。大輝だいきもお兄ちゃんのことをよろしくね。」

という手紙かえが返ってきました。そして、

「ママは、大ちゃんと和くんがいてくれてとても幸せしあわです。」

とも書いてありました。僕ぼくは、この一言ひとことで母の心こころがかわりました。

兄のことで友だちから、いやなことを言われたことがあったけど、兄のおかげで、6年生にいっぱい友だちがふ増えました。今は、いっしょに寝ねたり、遊あそんだりして楽しくやっています。元気げんきな兄を好きすになりました。

母の手紙てがみの最後さいごに、

「これからも、4人で協力きょうりょくしてがんばって生きていこうね。」

とありました。僕の心こころは幸せしあわで、満たんまんになりました。

今いま、僕は10才じゅうまい。夢ゆめは、野球やきゅうの選手せんしゆです。

私の夢は、なぎなたの国体選手になることです。私が目標にしている選手は、のじぎく兵庫国体でも、また、ベルギーの世界大会でも優勝した山口選手です。

山口選手は、小学2年生の頃から、なぎなたを始め、4年生の頃は負けずぎらいの選手だったそうです。くじけそうになった時は一人で考えこまず、仲間に支えてもらっていたそうです。私は、そんな山口選手みたいになりたいです。

今、私には、どうしても勝てない相手があります。その相手は、なぎなたで一番の友だちです。今までに、その相手に何度も挑戦していますが、引き分けたり、負けたり、判定負けをしています。勝てた事は一度もありません。

山口選手にもなかなか勝てない相手がいたそうですが、何度もその人に挑戦し、けいこをくりかえしていると勝てたそうです。

山口選手は、私にアドバイスをくれました。

大会前だけではなく、日ごろのけいこから、「うまくなりたい」「強くなりたい」という気持ちを強く持ってけいこすること、何事も最後まであきらめないことが大切だと。

だから、私は、これからもあきらめず、けいこに励んでいきたいと思っています。

僕は、兵庫県の高砂市で生まれました。生まれるのに、10時間もかかったそうです。

幼稚園の時、一番仲が良かったのは、伊藤君という子です。

伊藤君とは、毎日のように遊んでいましたが、年長の夏休みの時、僕は、横浜に引っ越しました。横浜では、福武君という友だちができました。

小学校2年生の1学期、今の学校に転校してきました。今は、いろいろな友だちと楽しく遊んでいます。

今でも夏休みなどには、伊藤君や福武君と遊ぶことがあります。その時に、友だちっていいなと感じます。

僕は、今、テニスを習っていて、将来、テニスのプロプレーヤーになりたいと思っています。きっかけは、テニスのマンガを見て楽しそうだと思ったからです。最初は、ラケットを使わずにコーチの打った球をとるぐらいでしたが、最近は、球を打ち合うことができるようになってきました。休みの日には、お父さんと打ち合いをしています。

プロのプロプレーヤーになると、いろいろな選手と戦うので力をつける必要があります。それで、僕は、ふっきんとはいきんのトレーニングをしています。

将来、自分の夢がかなえばいいなと思っています。テニスを通じて、大人になっても友だちと仲良くしていきることができればと思っています。